

策定委員会では、12月から順次、**組への聞き取り**を行っています！

3月1日現在、組長さんのご尽力のもと、23ヶ組での聞き取りが実地されました。ご協力いただきました各組さんには改めて御礼申し上げます。「何が言いたいのか、さっぱりわからない」「多くは組織論。50年後のビジョンに欠ける」「組のことについて、教区が口出してほしくない」「地理的条件を考えるとブロック別は現実的でない」「ブロック会議に門徒の代表が出たとしても、組に持ち帰って話す環境がない」などなど、新しく提示させていただいた組教化推進部（仮称）やブロック別連絡協議会に対して厳しいご意見も出ました。しかしながら、これこそ、顔を合わせての生の声。ああむね、活気のある友好的な組での聞き取りでした。「やっと話す場所ができた」「次はあるのか？」の好評価も。

2015年3月1日

A4一枚で伝える

大阪教区教化体制策定委員会発行

策定ホットライン

第5号

**組での聞き取り
と
新教化体制**



組の

人が動く

組と組の

人が出会う

各組活動の

情報交換が
出来る

組で、寺で

情報が
活用される



人と情報をつなぐことが、教化活性化の第一歩と考えています！



組からの
ご意見



■組織について■「企画部」という名前がそぐわない。現場の声が却って懇談会でスポイルされるのではない？／企画部会、宛充て職が多すぎる。常態的に教化体制を見つめてもらう人を確保すべき／充て職は議員でも教化委員会の経験者が入るべき／ブロック協議は面白いと思う。細分化されれば小回りがきくだろう。

■時代と教化について■「出向く教化」ということだが、全国的に見れば月参りをしているのは50%を切っているらしいが、われわれは常に月参りというかたちで出向いている。そこで貰ったヒントを得て、教区・本山でヒントを貰ってまた出向いている。実は、まさに今出向く教化なのだ／マンションが多い区域に居る。ときどきぽつと法事の依頼などがある。飲みに行った隣の人が縁になることもある。大抵マンションだ。求める人は結構あるんだ。それをつないでゆくのが寺として大切な役割／座談会をしようとしても、門徒さんはたとえ顔見知りばかりでも発言をなかなかしない。座談会の司会者を育てる研修を設けてほしい／「多い独居老人」「門徒減少」…お寺の経営危機もふまえて同朋会運動としての教化がほしい。たとえば同朋大会は住職寺族門徒があつまる最大の間だと思う。ここがつかないと／限界集落・地方消滅。都市部の中でも旧村そのものは限界集落。「同朋」といわれてもピンとこないというアラフォー住職も居る。アラフォー住職では無縁社会・終活という議論になる。強い危機感だ。大きな情勢変化にもっと敏感にならないといけない／寺の門徒であることが息子たちから「負の遺産」と言われる。総代の成り手がない／寺には報恩講より盂蘭盆会に人が集まる。ここにヒントがあるのでは？門徒は先祖供養が大切と考えている。

組からの ご意見



■推進員について■養成講座をした組の情報がほしい／養成講座をしていない組をそのままにしておいていいのか？／組推進員連絡協議会ができれば組推協の会長の負担が大きいだろう。会長でなくても出られるようにして欲しい／「全推進員のつどい」や同朋大会、門徒会員研修など似た行事はまとめてはどうか？／養成講座はすでに組や現場が主役といえる。今あるものは大事にしつつ教区のサポートを望む／一人のひとが推進員であり門徒である。それが理解しにくい／養成講座の後期教習は持病のある人など上山できない。本山が杵を作って突っぱねている。教区としての意見を宗門に働きかけられるそんな教区体制がほしい／組では推進員になった人たちを中心に学習の会が発足した。教区も養成講座を終えてからのサポートを／「教化活動」という看板を掲げると門徒はついていけない／養成講座があると、若手僧侶の発掘や、門徒との交流もでき互いに学べる。しかしそれも組が動かないと開催すらできない

■教化センターについて■教化センターはシンクタンクにするべきである／教区内の任意の勉強会の団体などを、教化センターでつかむことはできないか。あつちでもこつちでも皆好きなようにやっている。時に批判し合うようなことにもなる。統合なども考えられないか／教化センターが教化委員会の組織の中心にないのはおかしい／寺から相談をしたくても教化委員は常駐していない。相談窓口として、教化センターを充実させるべきである。また、相談窓口だけではなく、教化の指示もセンターがしていくようにしてほしい／

■青少幼年について■青少幼年向けの活動が弱いのではないか。この世代に目を向けないと教団はつぶれてしまう／教化や広報物は子どもを対象にすべき。昔は生活基盤の中にあつた仏教が、なくなってきた時代／子ども会を復活したい。マニュアルを

■広報について■教区からの全寺院発送や『南御堂』など、情報量の多さに整理ができない。週刊紙的に優先順位を決めて話題を提供してみてもと思うが実際は無理だろう。難しい課題だ／教区からの発送物はほとんどが使えない。3ヶ月に一度でもいいのでは？／講座や送られてくる本やDVDなど無料だが自分でお金を出して苦労するということも意義がある／インターネットを利用したものやデジタル系の配信は今後絶対に必要。現代の大人や子どもに響くものを／門徒会版の広報物、メール配信を

■その他■大阪の人たちは和歌山の状況をあまりご存じない。普段から思っている意見を教区に伝える場所をもっと作ってほしい／門徒が何を求めているのか？その声を聞かなくては／本願寺派など、他派から学ぶ姿勢も大切！（←多数のご意見）

現教化体制の 具体的課題



- ①教化委員会の中核を担う
企画部会と、現場活動する
専門部会との連携不足
- ②委員充て職のメリット・デメリット
- ③包括的な広報活動への移行
- ④教化の中心地・難波別院と
平行に「出向く教化」も
- ⑤業務集中荷重の解消
- ⑥教区教化センターの課題
- ⑦真宗学院運営方法の再考
- ⑧青少幼年活動への理解不足
とアピール不足

答申で出た課題に対する、これからの方向性について簡単にご報告します

- 企画部には、新たに現場の声を反映できるよう専門部会からも代表を企画部会に、また教区と連携を図れるよう人選いただけるよう提言したいと考えます。なお、この選出方式では、各部員が業務荷重になるとの懸念についても、年間スケジュールを立て荷重にならない調整をします。
- 各部会や組への聞き取りの結果として、教化事業の企画についてはその現場を知る実行委員会ならびに委員会の代表者で構成する専門部会が担うことがボトムアップにつながると考えます。そこから提出された企画を全体的に俯瞰し、組や寺院、門徒の意見を正しくみ取れているかどうかを総合的に調整するため、従来の企画部会を「総合調整部会」と名称変更する予定です。
- 各部門の聞き取りを実施したこと、その意義や実績を知るにつけ、組織のスリム化には、穏やかな経過が必要と考え、現段階では専門部会をゆるやかに編成しなめすに留めます。
- 組や寺への「出向く教化」を推進する部門として、「組教化推進部」を新設します。
- 広報関係の代表で「広報・出版部」を組織し教区のニーズにあつた広報をめざします。
- 青少幼年部に青少年の代表が入ってもらい教区の活動に積極的に意見を求めます。
- 駐在が本来の教導業務に集中できるよう、事務作業を見直します。

今後さらに策定作業を進めてまいります 策定委員会

